



JA葬祭 通信

地域とともに、ゆたかな暮らしのお手伝い

2012.3月発行 第2号

発行 / 福島県JA葬祭事業連絡協議会
編集 / JAライフクリエイティブ福島 生活事業部 催事課
〒963-0725 郡山市田村町金屋字下夕川原76番1
TEL024 (942) 5078
ホームページ <http://www.jalcf.jp/index.shtml>
お客様相談窓口
(ご意見・質問・苦情受付) ☎024 (942) 5078



福島県JA葬祭事業連絡協議会
会長 大橋 文男

ご挨拶

多くの犠牲と甚大な被害をもたらした「東日本大震災」が発生してから1年が経とうとしています。この震災により亡くなられた方々に対し、心からお祈り申し上げます。いまだ住み慣れた

土地を離れ、避難先で生活を続けている方へ、一日でも早い復興を願いJA葬祭グループは御支援を続けていきたいと思っております。

各斎場にて下記の行事・イベントが行われました。



9月10日

JAたむら人形・ぬいぐるみ供養祭
美山保育園の園児から感謝の気持ちがこもった別れの言葉が述べられた



11月20日~21日

JA会津みなみ やすらぎ会員の集い
浅草浅草寺・千葉県南房総方面へ38名の会員が参加しました。*写真 浅草寺



11月12日
No.1

㈱JA郡山市協同サービス
「健康づくりフェスタin郡山東斎場」に於いて、帝京安積高校吹奏楽部によるオープニング風景



11月12日
No.2

健康づくりフェスタ No.2
血圧・体脂肪・血管年齢・骨密度の測定を行う参加者。結果に一喜一憂。

イベント情報

「県内統一JA葬祭事前相談会」
平成24年初夏

県内JA葬祭において葬祭事前相談会を開催いたします。当日は斎場施設見学や葬儀見積、各JAにより様々なイベントが行われますので、ご家族での御来場をお待ちしています。

平成23年度JA催事事業の取組み

福島県JA葬祭グループとしての資質向上対策

JA葬祭グループではご利用の皆様からのご要望に応える為に、葬祭スタッフのレベルアップ対策として各種の講習会・研修会を開催しました。

経験の浅い職員・社員向への葬祭業務基礎講習会を始めとして、葬祭業務専門講習会(ご遺体処置・衛生知識・グリーフサポート)、葬祭業務司会技術研修

会、斎場スタッフ接遇研修会等を実施しました。

11月24日に各種の研修会・講習会で習得した技術・知識の発表会としてJA葬祭スタッフ接遇コンテストを実施しました。今年で4回目となるコンテストで約80名が参加して競技が行われ(株)JA郡山市協同サービスが最優秀賞を獲得しました。



5月13日

葬祭業務基礎講習会で福島市仏教会会長
安洞院 横山俊邦 住職の講演



7月15日

葬祭業務司会担当者研修会
プロのアナウンサーを迎え、故人の尊厳を尊びご遺族の思いを具現化するために必要なアナウンス方法を学ぶ受講生。



8月1日

葬祭業務専門講習会
「グリーフワークを意識したご遺体処置」を講義する
株ジーエスアイ橋爪謙一郎先生。



10月26日

JA葬祭スタッフ研修会
葬儀接遇の基本となる「礼」の訓練。
講師 (株)マーケティングオフィス
小野田 正美先生



JA葬祭スタッフ接遇コンテストで最優秀賞を獲得した(株)JA郡山市協同サービスチーム

11月24日

JA葬祭スタッフ接遇コンテスト

最優秀賞	(株)JA郡山市協同サービス
優秀賞	(株)ジェイエイ新ふくしまライフ
〃	JA会津いいで総合サービス(株)
特別賞	JA伊達みらい

豆知識

春彼岸について

お彼岸は3月17日(彼岸入り)～20日(中日・春分の日)23日(彼岸明け)の7日間になります。

単に「彼岸」といえば春の彼岸を指し、秋の彼岸は「秋彼岸」といいます。春分の日・秋分の日を中日(ちゅうにち)と呼んでいます。「国民祝日に関する法律」を見ますと春分の日は「自然をたたえ、生物をいつくしむ」とあり、秋分の日には「先祖をうやまい、なくなった人々をしのぶ」とあります。

彼岸という言葉は、古代インドのサンスクリット語の「パーラミター(波羅蜜多)」を漢訳したもので「到彼岸」の略で、私たちが生きている煩惱に満ちた俗世間(此岸)から、涅槃(ねはん)の世界(彼岸)にいたるという意味です。

春分・秋分のこの時期に彼岸法要を行うのは、太陽が阿弥陀如来の浄土(極楽浄土)の方角である真西に沈むので、西方に沈む太陽を礼拝し、遥か彼方の極楽浄土に思いをはせたのが彼岸の始まりです。

彼岸にはお墓の手入れをし、家族でお墓参りに行きたいものですが、雪の深い地方では雪が残っていてお墓に行けない地域があります。そのような地方では自宅の仏壇を丹念に手入れをして家族で礼拝しましょう。

木を使い、綺麗な木目を生かした上で豪華な彫が入るシンプルで落ち着いた雰囲気の仏壇です。

一般的に真宗系の宗派は金仏壇を使用し、その他宗派は唐木仏壇が多いとされていますが、あくまで慣習的な結果であって、宗派によつての仏壇の違いではありません。宗派によつて、形が決まっているのは、日蓮正宗のみです。

● 仏壇仏具の手入れ

普段、仏壇や仏具の掃除をしても、目の届かないところが汚れているものです。お盆や彼岸の前、年末など各家庭で掃除しやすい日を決めて念入りの掃除をしましょう。

お掃除をする前に必ずご本尊と位牌に礼拝しましょう

ご本尊、脇仏、位牌などの手入れ

- 毛バタキでほこりを払います。金箔や金粉の部分は手で触れたり布で拭かないようにしましょう。

仏具の手入れ

- 仏具は種類も多く、素材もそれぞれに違います。素材にあった手入れをするとともに丁寧に扱い、仏具を落として仏壇を傷付けないようにしましょう。
- 塗り仏具はやわらかい布で乾拭きして汚れを落とします。かたい布で拭くと、傷がつく可能性があるので気をつけましょう。
- 金物仏具で磨くことができるものは、金属磨き剤や洗浄液を使ってよく磨き光沢を出します。



真宗大谷派(お東)の例

● 仏壇

仏壇とは、一般家屋の中に常設された、仏を祀る厨子であり、先祖や家族の死者を祭る祭壇でもあります。内部は仏教各宗派の仏堂をあらわした豪華な造りになっていて、本尊や位牌を納めます。本来は、仏像を祀る壇全般を指し、寺院・仏閣における須弥段(しゅみだん)も含まれますが現代は「仏壇」といえば、家庭内に安置するものを指します。

● 仏壇の種類

仏壇には、唐木仏壇、塗り仏壇(金仏壇)、家具調仏壇があります。唐木仏壇は黒檀、紫檀、ケヤキ、タモなど硬い

●●●●● 開眼法要 ●●●●●

新しく仏壇を購入したときは、本尊・位牌をまつり、必要な仏具もすべて飾り終えた後、菩提寺の住職に来て頂き本尊・位牌に魂を入れてもらう儀式をお願いします。お寺で法要を営むのであれば、本尊と位牌を持参して魂入れをお願いし、帰宅後仏壇に安置します。

『葬儀文化』

葬儀の原点は、①故人の尊厳を守る事と、②ご遺族の悲しみ(グリーフ)を大切にする事の2点です。この2つのために葬儀はあり、この2つが軽んじられるものは葬儀ではないと言えるでしょう。

葬儀文化は、長い歴史を通じて地域の人々が培ってきたものですから、その精神を大切にする事が必要です。葬儀には長く多くの人々が育ててきた知恵が溢れています。過去の残存物だと切り捨てるのではなく、そこに込められた意味を学ぶ必要があります。

確かに文化はそのときどきの歴史や時代を反映していますから、中には現在には合わなくなってしまうものもあり、全てをそのままの形で継承する

必要はありません。しかし、その文化がなぜ、どのようにして形成されてきたかに思いをいたすことにより、長く続いた風習、儀礼、文化から人々が何を大切にしていたかを学ぶことができます。

それと同時に、葬儀が形骸化してしまわないように、葬儀の意味を常に再確認しつつ、その時代と人に合った適切な葬儀を営むよう努める必要もあるでしょう。

最近の「家族葬」「直送」「ワンデー葬儀」「無宗教葬」など、流行りに左右されることなく、残されたご遺族・ご友人の方々の故人への思いを大切にして、皆さんで温かくお見送りする葬儀が『よい葬儀だった』と言われるのではないのでしょうか。

参考文献:「葬儀概論」 碑文谷 創著

東日本大震災で多くの人命が失われ、建物や道路などに大きな被害がありました。県内各地の墓地・霊園に建てられている墓石も例外ではなく、震災から1年近く経った今でもそのまま手つかずになっている墓石も在ります。倒壊した棹石を元に戻しただけの墓石やヒビが入った墓石など数多く残っています。まだまだ余震が続くことや、まず住んでいる自宅の修理が先といった理由からだそうです。

近年に建てた墓石は耐震性のあるボンドで簡単には倒れないようになっていますが、一度倒壊した墓石を元に戻しただけでは軽い余震でも再度被害に遭いかねません。信頼のある墓石メーカーで修理しましょう。



修繕前



修繕後

JAでは
墓石の建替え・リホーム・
修理の相談を
受け付けています。
最寄りのJA窓口へ
ご連絡下さい。

詳しくは

(株)JAライフクリエイト福島
HPをご覧ください。

<http://www.jalcf.jp/index.shtml>

JAライフクリエイト福島

検索

